母娘 2 世代間における意識の検討 (1)

—食ライフスタイルおよび養育態度について—

○小野寺敦子・河野理恵

(目白大学人間学部)

キーワード: 母娘, 食ライフスタイル・養育態度

Similarities and differences between daughters and their mothers (1)

-Views of dietary behaviors and attitudes towards children -

Atsuko ONODERA and Rie KAWANO

(Meiji University)

Key words: daughters and their mothers, dietary behavior, child rearing

【目的】

どのような食事を誰とするかという食ライフスタイルは時代や文化によって異なるが、この食ライフスタイルの基礎は育ってきた家庭の食事環境 (例: 母親の料理・食卓の雰囲気) によって形成されていくと考えられる。しかし近年、日本では孤食・個食・粉食・小食といった食行動が問題になっており、親から子へと受け継がれていく食行動は大きく変化してきているといえよう。そこで本研究では、幼児を持つ娘とその実母という 2 世代間における食ライフスタイルの共通点を明らかにし、さらに子どもへの養育態度と食ライフスタイルとの関連性について検討する。

【方法】

調査対象者: 首都圏に在住し幼稚園と保育園に通う子どもをもつ母親 (以後、娘) 360 人 (幼稚園児の母親 199 人・保育園児の母親 161 人) と実母 71 人 (娘に実母への質問紙の郵送の可否を問い可能な場合のみ質問紙を発送し無記名で回答の上、郵送にて大学に返送を依頼した)。娘の平均年齢は 37.81 歳 (SD=4.46)。実母の平均年齢は 65.63 歳 (SD=6.44) であった。**調査時期:** 2015 年 3 月。**調査内容:** 母娘への共通項目 (a) 食ライフスタイル 30 項目 (b) エゴレジリエンス 14 項目 (c) 性役割観 5 項目 (d) 子育ての制約感 9 項目 (e) 高齢者イメージ 12 項目 (f) 養育態度 14 項目 (g) 老親扶養義務感 8 項目。娘への質問項目 (h) 父親/母親との関係性 23 項目 (i) 子どもへの期待 15 項目 (j) 現在の体調と生活満足感 14 項目 (k) 親や高齢者に関する 10 項目。母親への質問項目 (l) 最近の活動について 31 項目 (m) 娘との関係性 23 項目。回答は (k) 以外は 4 件法で評定した。その他: 個人属性。本研究では (a) と (f) を分析対象とした。

【結果と考察】

1. 食ライフスタイル項目の中から 16 項目を選び母娘別々に因子分析 (主因子法・Promax 回転) を行ったところ共に 4 因子を抽出した。第 1 因子「料理好き」因子, 第 2 因子「健康的食事」因子, 第 3 因子「伝統的食事」因子, 第 4 因子「コンビニエントな食事」因子と命名した (母親の α 係数は 63 から 90, 娘は 65~90 であった)。娘の「健康的食事」因子では「和食 (煮物など) を作る」の因子負荷量が高く、娘世代では和食を作ることを健康的ととらえる傾向がみられた。しかし母親世代では「外食をする」がいずれの因子においても高い負荷量を示さなかった。因子分析の結果、母娘に共通して因子負荷量が高かった項目のみを使って合成得点を算出し 8 因子間の相関係数を算出した (Table 1)。この結果、「母料理好き」と「娘料理好き」、「母健康的食事」と「娘健康的食事」、「母伝統的食事」と「娘伝統的食事」、「母コンビニ」と「娘コンビニ」において有意な正の相関が認められた。これは母親がコンビニやファーストフードを使う頻度が高いと娘もその傾向が顕著であることを示している。すなわち食ライフスタイルは母から娘へと世代間で伝承されている可能性が示唆された。さ

らに「娘料理好き」は「母料理好き」「母健康的食事」「母伝統的食事」との間に正の有意な相関が、「母コンビニ」とは負の有意な相関が認められた。実母が料理好きでファーストフードをあまり利用せず健康的で伝統的な食事を作っていた場合、娘は料理好きになると推察される。

Table 1 母娘間の食ライフスタイルと養育態度 (相関係数を示す) (71 組の母娘)

	母料理好き	母健康的食事	母伝統的食事	母コンビニ	母オーバー	母アンダー
娘料理好き	.293*	.273*	.311**	-.314**	-.212	.247*
娘健康的食事	.169	.336**	.177	-.289*	-.016	-.028
娘伝統的食事	.139	.212	.442***	-.339**	-.090	-.118
娘コンビニ	-.265*	-.220	-.202	.464***	.083	-.070
娘オーバー	.017	-.057	-.039	.114	.273*	-.134
娘アンダー	-.020	.117	.015	-.130	-.312**	.292*

* $p < .05$ ** $p < .01$ *** $p < .001$

2. 母親と娘がとる養育態度の関連をみるために養育態度の 14 項目に因子分析 (主因子法・Promax 回転) を母娘別に行い、両者共に 2 因子が抽出された。第 1 因子は「子どもの言い訳を認めない」などの 5 項目で因子負荷量が高く「オーバークontrol」因子 (以下 OC) と命名した。第 2 因子は「子どもが嫌がることは無理にさせない」などの 4 項目で因子負荷量が高く「アンダーコントロール」因子 (以下 UC) と命名した。次に 2 因子の合成得点を算出し両者の相関係数を求めた (Table 1)。その結果「母 OC」と「娘 OC」との間には有意な正の相関が、「娘 UC」との間には負の有意な相関が認められた。一方の「母 UC」と「娘 UC」との間には正の相関が認められた。母親が厳しく娘を育てると娘も子どもに対して厳しい養育態度をとり、母親が放任的な養育態度で娘を育てた場合、娘もまた放任的な養育態度をとっていることが示された。3. OC 得点と UC 得点を用いて k-means 法によるクラスタ分析を 360 名の娘データに対して行い 4 クラスタを得られた。OC と UC が共に高い群をアンビバレント群 (111 名), OC が高く UC が低い群をオーバー群 (77 名), OC が低く UC が高い群をアンダー群 (64 名), OC と UC が共に低い群をバランス群 (104 名) とした。これら 4 群の養育態度によって娘の食ライフスタイルがどのように異なっているかを分散分析によって検討した。その結果、「娘コンビニ」得点において 4 群間で有意差が認められた (F 値=6.45***)。多重比較の結果、アンビバレント群は他の 3 群よりも有意に平均値が高くなっていた。簡便な食ライフスタイルをとる母親は、子どもに厳格で時には叩いたりする態度もとるが、その一方で、ほしがるものがあれば買いつけがまま受け入れるアンビバレントな養育態度をとる傾向が明らかになった。

付記) 本研究は、平成 25 年度科学研究費助事業 (基盤研究 (C)、課題番号 25380889) の助成金交付を受けて実施された。